

「二宮翁夜話」日本経営合理化協会出版局 1995年1月24日刊を読む

第一四四夜 凶作に^{かこいこく}困^{しようれい}穀の奨励

- (1)世の中の学者は、草の根や木の葉などを調べて、これも食べよ、あれも食べよというが、ワシは聞く耳をもたんな。
- (2)なぜなら自分で食べたり十分に経験しない話なので、はなはだおぼつかないのだ。しかもこのようなものを頼りにしていると、凶年の対策を^{おこた}怠ることになり、世の中の害を招いてしまう。それよりも凶年^{ききん}飢饉^{さんじょう}の惨^{あつ}状がいかにかいひどいものか、僧侶が地獄のありさまを絵にかいて老婆を^{さと}諭すように、農民にこんこんと説いて、村単位で穀物の貯蔵をすすめたほうが^{まさ}勝ってるぞ。
- (3)だからワシは、草の根や木の葉を食べるべしとは絶対に言わないで、飢饉を^{かこいこく}恐れて、^困穀(穀物の貯蔵)をやっていないことだけを注意して、^{つと}困穀を実行させるのを勤めとしたのさ。
(一八九)

第一四五夜 ^{ひえ}稗がいちばん蓄えやすい

- (1)穀物を蓄えて数十年たってもすこしも^{いた}傷まないのは、^{ひえ}稗がいちばんだよ。
- (2)村人で相談して、稗をなるべく多く蓄えるべきだな。
- (3)稗を食料に用いる場合は、凶年のときは又力を取り去るんじゃないぞ。稗一斗^とに小麦四、五升を加えて、水車の石臼^{うす}でひき、細かな網のふるいにかけて、^{だんご}団子につくって食べるんだ。俗に^{もちくさ}餅草というよもぎの若葉をいれると味がよい。稗を凶年の食料にするにはこの調理法がいちばん徳用だな。^{ひえめし}稗飯にするのは損だ。
- (4)もっとも、暮らし向きの上の人の食料としては、稗を二昼夜水につけ、せいろで^む蒸して、それからよく干して、臼^{うす}でついて又力を取り、米を少しまぜて炊^たくんだ。量がとても増えるから、水を余分に入れて炊いたらいい。上等の食事にはこの方法に^{まさ}勝るものはないんだ。だから金持ちは自分のためにも稗を多く貯蔵しておいていいものなのさ。つとめて蓄えておくのがよいぞ。(一九三)

第一四七夜 凶作準備の蒔きつけ法

- (1) 気候が悪く、今年も凶作になりそうというような兆候があれば、食料になるジャガタラ芋^{いも}をはやく掘り出して、ただちに、取り入れの終わった畑に肥料をやって、植えつけよ。
- (2) 次に大根とかぶを蒔き^ま、次いでソバを蒔く。ソバを蒔くときに、ソバの種の中に油菜の種^{あぶらな}をまぜて蒔くべきだな。そうすると、ソバが実って刈り取るときには、油菜も大きくなっている。しかもソバと一緒に刈り取っても、根と茎が残っていれば油菜に害はない。ソバを取ってすぐ肥やしをやり、手入れすれば、たちまち菜畑^{なはた}となって栄えるもんだ。山畑などには必ずこの方法を用いるがよい。(続二八)

[コメント]

大不況の現在、最も読むべきはこの「二宮翁夜話」。不況を乗り切る知恵がいたるところに示されている。

- 2009年7月4日林明夫記 -